

沖縄キリスト教短期大学報

那霸市首里藏町3-6-1
仲綱キリスト教短期大学
電話 32-5161
発行人 平良修
編集人 学報編集委員会
印刷所 協栄印刷株式会社
電話 33-4853

太平洋戦争終戦前の日本においては、我々が陥り易い二つの穴がある。その一つは、自分の判断を絶対化し、その基準ですべてを計ろうとする独断の誤りである。我々は如何に拙く、国民は極度の情報不足による判断の過ちを犯さざるを得なかつた。しかしとの国策がとられたため、判断を誤ったと言うよりは判断すらできなかつたと言うべきだろう。それにひきかえ現代は情報過剰時代であり、余りにも膨大な情報量と情勢の複雑な変遷に拘しまくられて、是非の判断がつかなくなつてしまふ危険性がある。更に進むと、判断そのものを断念放棄してしまう最悪の状態に追い込まれかねない。

沖縄キリスト教短期大学は諸君を第十九回入学生として深い喜びをもつて迎える。同時に、諸君の将来を決定づけることになるかも知れない共同体への迎え入れであることを思い、襟を正さざるを得ない。

新入生歓迎のことば
複眼で見よう

学長平良

にもう一つの説では、主導的判断をなし得ず、周りの状況に絶えず動かされ押し流される在り方である。権力者が右と言えば右を向き、多数が左と言えば左に向きを変える。個意識が脆く、権威や集団に屈伏し易い体質を持つ日本人の陥り易い弱点である。

主國家日本を相対化し得た数少ない覺醒者の一人であつた。本短大はキリスト教精神によつて建学された大学として、矢内原とともに、沖の言に反するものに対する、それが如何に強力かつ正当に見えたとしても「否!」をつきつける不動の視点を持つ学校である。ク複眼

太平洋戦争終戦前の日本においては、我々はいかにも国民は極度の情報不足による判断の過ちを犯さざるを得なかつた。しかしとの国策がとられたため、判断を誤つたと言うよりは判断すらできなかつたと言うべきだろう。それにひきかえ現代は情報過剰時代であり、余りにも膨大な情報量と情勢の複雑な変容に拘しまくられて、是非の判断がつかなくなつてしまふ危険性がある。更に進むと、判断そのものを断念放棄してしまう最悪の状態に追い込まれかねない。

こういう時代にあつて我々が陥り易い二つの穴がある。その一つは自分の判断を絶対化し、その基準ですべてを計らうとする独断の誤りである。我々は如何に拙いも

「浮動」のいすれかの谷間に落ち込む危険性を絶えず持つてゐるのであるが、少くとも眞なるものを追求する学徒はそのいすれにも落ち込むことなく、これら二つを同時に緊張的につきしていく者でなければならぬ。よく言われるところのク複眼で見るク姿勢を生きることである。無限に深い眞理の世界と複雑極まる人間社会の実相が平板的な單眼で見抜けるはずはないからである。

ク複眼で見るクということを本短大の建学の精神に即して言うならば、その一つの眼とは、本短大が依つて立つキリスト教信仰による不動の眼である。「天地は滅びるであろう。しかしあたしの言葉は滅びることはない」と宣言されに永遠者リストの言葉を原点と

で見るゝというときのいま一つの眼とは変転する状況を事実に即して受けとめていく柔軟な眼のことである。これは「学する者」に必要である。要は「からざる眼」である。夏にいま一つの眼とは変革を怖れない眼のことである。本短大は「抗議者」を意味するプロテスタント教會（新教）を基礎にしている。変革を歓迎し保守的安住に甘んじるとするみずからに抗議しつつ、自他の変革に努力を惜しまない大学になり続けることが本短大の在り方なのである。

く、できるだけ多角的かつ複雑に考え、間へに散り、決して分つたような気分になってしまわないことである。大学は単なる教育の場ではなく研究の場でもあることを肝に銘じておいてもらいたい。英語学や保育学に秀でることが諸君のすべてでないことは言うまでもない。しかし、少くともこれから始まる二年間、諸君がみでから自主的に選択したそれぞれの学的分野に真剣に打ち込む体験なしに人間的成长を夢見てはならない。私は敢て言う。英語専攻者は英語で、保育専攻者は保育で勝負すべきである。真に手答えのある学びをしてもらいたい。

ささやかなアドバイス

真喜志 英美子

月であったが、特にそれに執着を感じるというわけでもない。私は私なりにやりたいことをやってきたせいであろうか。こんな事を言うと、いかにも大仕事をやったようになると聞こえるかも知れないが、私のやったことといえば、クラブ活動を通して、大いに遊び、大いにダーベリ、あげくの果てに青アザを作ったほどの大格闘（英語劇「奇跡の人」の中で）を演じたことぐらいなのである。

短大生活の中で、まっさきに思い出されるのは、やはりクラブ活動である。皆で心を一つにして力を合わせて働くことの喜び、そしてそれが実を結んだ時の喜びを改めて知った。仕事の成功・不成功にかかわらず、チーム・ワークの大切さというものを身にしみて感じた。

英語クラブに属していたおかげで外人と接する機会も多かった。そこから学んだ事も多いが、ここでは二つほど挙げてみたい。まず物事に対して「はい」、「いいえ」の返事がはつきりできるようになったこと。日本人特有のものだといわれる瞬昧な返事の仕方は、できるだけ避けねばならないと思う。もう一つは、まちがいを恥とせず、できるだけのことはや

つてみよう、という気になつたこと。行動する前からまちがいや失敗を怖れていては何もできない。失敗したらしたで、そこから何らかの解決策も出てくる「いふものだ。何もやらないよりはよっぽど価値のあることなのである。

さて、卒業生として在学生に何かひと言、という編集者からの依頼であるが、私自身まだまだ助言を受ける立場にあつて、ちょっと困るのである。といって逃げるわけにもいかないので、「一ひとほど感じたことを述べてみる。まず第一に、あまり教科書だけで勉強するな、ということである。勉強するのに「人」と「書物」を大いに活用せよ、といふことだ。成績だけを気にしていくは、つまらない人間になつてしまふのではないか。私達の思想はまだ固まつていなさい。それを固めていく上で、他の人と意見をたたかせたり、本の中の思想を学ぶことは大変有益である。

(1) 伊志嶺博志 英語科専任講師 担当：商業英語
（一九七五年四月一日付）

(2) 国吉真紀子 一般教育専任助手 担当：体育
（一九七五年三月三一日付）

二、退職

教育職員

(1) 新見宏教授
（一九七五年三月三一日付）

(2) 久野真智子助教授
（一九七五年三月三一日付）

III、就任

・保育科長 遠藤久江 保育科
講師（一九七五年四月一日付）

・図書館長 漢那憲治 一般教
育講師
（一九七五年四月一日付）

「紀要」紹介

「沖縄キリスト教短期大学紀要」第二号が去る十一月十五日に発行された。執筆者と論文は次のとおり。

○山里恵子講師
(変形文法を背景にした英語教育と)
○比嘉(金武)美代子講師
(「十一夜」のFesteについての考察)

○新見宏教授
(ペーパーについての歴史的的研究)

○漢那憲治講師
(学校図書館に対する教師と司書教諭の意識構造)
希望する方は、三〇〇〇円で預り、しますので、本短大図書館までご報下さい。

<p>カウンセリング室開設</p>
相談日 毎週月・水曜日
午後四時～六時まで
場所 二号館渡久地研究室
申込方法 直接渡久地研究室に申出を すること。

○ 松原治郎　日本青年の意識構造　一九七五

○ 宮本忠雄　言語と妄想　一九七五

○ 大久保慶　幼児の文構造の発達　一九七四

○ 秀英出版　秀英出版　一九七三

○ オニオンズ　英語の特徴　一九七四

○ 千城　一九七四

○ T・S・エリオット　エリオット全集　一九七二

○ 中央公論社　中央公論社　一九七二

○ 最近言語学・英語学文献総覧　(沿革言語学研究会編著)　一九七四

編集後記

キャンパスをゆく、フレッシュユ
マンの表情が初夏の光にかかや
ていて、学校のスタッフも奮起
させられる。第十号ではこのうつり
学生たちを「どのように育てよう
としているか」を聞いてみた。本
來まとめられないところに意味を
もつテーマを無理にまとめてし
った感がある。一体私は何をしよ
うとしているのかなアーチと聞い
けねまづかけを作つたにこうなら
の。これで一年間の編集の任を解
かれるので編集子一同安堵してい
る。今までの御協力に万謝

(E・H)

「沖縄キリスト教短期大学のアインデンティティを求めて」を『学報』の編集方針として取り上げて、今まで三回目になる。最初（八号）は、キリ短とは何かということを追求した。

今回は、キリ短の教師はどのような学生を育てようとしているのか、又はどのような教育を学生にしようとしているのかを探つてみることにした。そのため、去る三月十一日に、平良修・松田定雄・比嘉美代子・渡久地政順・遠藤久江・比嘉健次郎・漢那憲治の七名による座談会が持たれた。以下に述べることはこの座談会で話し合われたことをもとに、「キリスト教主義建学精神と大学教育とは何か」を考える一助として、筆者なりにまとめたものである。

まず、建学精神にもとづく教育とは何かを探り、ついで、大学において私たち教師がなすべき教育とは何なのかを見ることにした。

建学精神にもとづくとは、キリ短は、キリスト教精神にも

「一〇年後の私」、これは今年の本短大入試・小論文の題目である。殆んどの学生が自分の「夢」即ち一〇年後の自己理想像とそれまでのプロセスをすらすらと語っている。うまく大学の課程を卒え、就職し、恋愛し、結婚し家庭をもちたいという夢である。

このロマンティックな夢は、やや酷ない方をすれば、学生自身が望んでいる本当の意味の夢ではなく、むしろ学生に対する他人や両親・教授・雇主等の期待を自らの夢におきかえてしまつたいわば他人の夢だといえそうだ。

さて、夢をもつた新入生は「夢の実現」の最も大きな原動力となる筈の大学教育を経験するが、やがて学生達は、目的達成のプロセスである現実の生活に疑問を持ち始めるであろう。「何のために大学で学ぶのか」「そもそも何のために生きるのか」等の真摯な疑問の実現によって作られたレベルの上を、何の疑いもなく走り続ける來た学生達は、今始めて、そのレベルから一步踏み出し、これまでの自己を反省し、自らの意志によって新しいレベルを作りながら、依存的、他律的な生活から脱

り出る。この段階で、学生自身が望んでいた本当の意味の夢ではなく、むしろ学生に対する他人や両親・教授・雇主等の期待を自らの夢におきかえてしまつたいわば他人の夢だといえそうだ。

さて、夢をもつた新入生は「夢

の実現」の最も大きな原動力とな

る筈の大学教育を経験するが、や

がて学生達は、目的達成のプロセ

スである現実の生活に疑問を持ち

始めるであろう。「何のために大

学で学ぶのか」「そもそも何のた

めに生きるのか」等の真摯な疑問

である。又、小学校以来、両親や

社会の期待によつて作られたレ

ベルの上を、何の疑いもなく走り続

けて来た学生達は、今始めて、そ

のレベルから一步踏み出し、これ

によって新しいレベルを作りなが

ら、依存的、他律的な生活から脱

り出る。この段階で、学生自身が

望んでいた本当の意味の夢では

なく、むしろ学生に対する他人や

両親・教授・雇主等の期待を自ら

の夢におきかえてしまつたいわ

ば他人の夢だといえそうだ。

さて、夢をもつた新入生は「夢

の実現」の最も大きな原動力とな

る筈の大学教育を経験するが、や

がて学生達は、目的達成のプロセ

スである現実の生活に疑問を持ち

始めるであろう。「何のために大

学で学ぶのか」「そもそも何のた

めに生きるのか」等の真摯な疑問

である。又、小学校以来、両親や

社会の期待によつて作られたレ

ベルの上を、何の疑いもなく走り続

けて来た学生達は、今始めて、そ

のレベルから一步踏み出し、これ

によって新しいレベルを作りなが

ら、依存的、他律的な生活から脱

り出る。この段階で、学生自身が

望んでいた本当の意味の夢では

なく、むしろ学生に対する他人や

両親・教授・雇主等の期待を自ら

の夢におきかえてしまつたいわ

ば他人の夢だといえそうだ。

さて、夢をもつた新入生は「夢

の実現」の最も大きな原動力とな

る筈の大学教育を経験するが、や

がて学生達は、目的達成のプロセ

スである現実の生活に疑問を持ち

始めるであろう。「何のために大

学で学ぶのか」「そもそも何のた

めに生きるのか」等の真摯な疑問

である。又、小学校以来、両親や

社会の期待によつて作られたレ

ベルの上を、何の疑いもなく走り続

けて来た学生達は、今始めて、そ

のレベルから一步踏み出し、これ

によって新しいレベルを作りなが

ら、依存的、他律的な生活から脱

り出る。この段階で、学生自身が

望んでいた本当の意味の夢では

なく、むしろ学生に対する他人や

両親・教授・雇主等の期待を自ら

の夢におきかえてしまつたいわ

ば他人の夢だといえそうだ。

さて、夢をもつた新入生は「夢

の実現」の最も大きな原動力とな

る筈の大学教育を経験するが、や

がて学生達は、目的達成のプロセ

スである現実の生活に疑問を持ち

始めるであろう。「何のために大

学で学ぶのか」「そもそも何のた

めに生きるのか」等の真摯な疑問

である。又、小学校以来、両親や

社会の期待によつて作られたレ

ベルの上を、何の疑いもなく走り続

けて来た学生達は、今始めて、そ

のレベルから一步踏み出し、これ

によって新しいレベルを作りなが

ら、依存的、他律的な生活から脱

り出る。この段階で、学生自身が

望んでいた本当の意味の夢では

なく、むしろ学生に対する他人や

両親・教授・雇主等の期待を自ら

の夢におきかえてしまつたいわ

ば他人の夢だといえそうだ。

さて、夢をもつた新入生は「夢

の実現」の最も大きな原動力とな

る筈の大学教育を経験するが、や

がて学生達は、目的達成のプロセ

スである現実の生活に疑問を持ち

始めるであろう。「何のために大

学で学ぶのか」「そもそも何のた

めに生きるのか」等の真摯な疑問

である。又、小学校以来、両親や

社会の期待によつて作られたレ

ベルの上を、何の疑いもなく走り続

けて来た学生達は、今始めて、そ

のレベルから一步踏み出し、これ

によって新しいレベルを作りなが

ら、依存的、他律的な生活から脱

り出る。この段階で、学生自身が

望んでいた本当の意味の夢では

なく、むしろ学生に対する他人や

両親・教授・雇主等の期待を自ら

の夢におきかえてしまつたいわ

ば他人の夢だといえそうだ。

さて、夢をもつた新入生は「夢

の実現」の最も大きな原動力とな

る筈の大学教育を経験するが、や

がて学生達は、目的達成のプロセ

スである現実の生活に疑問を持ち

始めるであろう。「何のために大

学で学ぶのか」「そもそも何のた

めに生きるのか」等の真摯な疑問

である。又、小学校以来、両親や

社会の期待によつて作られたレ

ベルの上を、何の疑いもなく走り続

けて来た学生達は、今始めて、そ

のレベルから一步踏み出し、これ

によって新しいレベルを作りなが

ら、依存的、他律的な生活から脱

り出る。この段階で、学生自身が

望んでいた本当の意味の夢では

なく、むしろ学生に対する他人や

両親・教授・雇主等の期待を自ら

の夢におきかえてしまつたいわ

ば他人の夢だといえそうだ。

さて、夢をもつた新入生は「夢

の実現」の最も大きな原動力とな

る筈の大学教育を経験するが、や

がて学生達は、目的達成のプロセ

スである現実の生活に疑問を持ち

始めるであろう。「何のために大

学で学ぶのか」「そもそも何のた

めに生きるのか」等の真摯な疑問

である。又、小学校以来、両親や

社会の期待によつて作られたレ

ベルの上を、何の疑いもなく走り続

けて来た学生達は、今始めて、そ

のレベルから一步踏み出し、これ

によって新しいレベルを作りなが

ら、依存的、他律的な生活から脱

り出る。この段階で、学生自身が

望んでいた本当の意味の夢では

なく、むしろ学生に対する他人や

両親・教授・雇主等の期待を自ら

の夢におきかえてしまつたいわ

ば他人の夢だといえそうだ。

さて、夢をもつた新入生は「夢

の実現」の最も大きな原動力とな

る筈の大学教育を経験するが、や

がて学生達は、目的達成のプロセ

スである現実の生活に疑問を持ち

始めるであろう。「何のために大

</div